

### 3. [医療と保健の融合による健康づくり拠点の整備について]

掛合町会場

**Q15**：健康づくり拠点は、B&G加茂海洋センターの改築でなく、かもてらずに温水プールを整備することだが、波多満寿の湯のように温泉が沸くのか。それとも水を沸かして温水にされるのか。

A：水を沸かす。(健康福祉部長)

再質問：箱物がみんな他町にできて、掛合町は取り残されるような気がする。一極集中の箱物建設ではなく、不公平感を感じさせないようにしてほしい。温水プールは波多の満寿の湯の周辺に土地があり、温泉が沸く。温泉に浸って介護予防等で賑わい、地域の活性化に繋がる。不公平感を感じないような設定をしてほしい。

A：温水プールは加茂小学校も使う。かもてらずとプールを別につくると12億円かかることから、かもてらずを有効的に使う。都市公園整備事業がああ場所では使えるので1/2の補助が使える。B&Gの実績が生かせる。B&Gの支援が受けられるというように考えている。(健康福祉部長)

再質問：温水プールが健康に良いのなら、全町につくってほしい。木次、吉田にあり、大東にもできると聞いている。全町につくる計画がないのであれば、無料のマイクロバスとかの考え方はあるのか。

A：大東に考えているのは、プールではなくて温泉施設である。それ以外には、木次のゆったり館、三刀屋健康福祉センター、ケアポートよしだにある。全部の町につくるのは難しい。

交通手段の確保については、無料バスについて検討委員会で検討をしていただくことにしている。ただ、公共交通機関を使って行けるように、公共交通のバスも見直しをしていかなければいけない。(健康福祉部長)

**Q16**：本当にプールが良いとすれば、もっと多くの利用があると思う。水に入ることが好きな人も嫌いな人もいる。メリットばかりでなくデメリットもあり、非常に疲れやすい。波多から加茂へ行くと40分位かかるが、継続的に誰が行くのか。水圧、心臓が悪い人は血圧が下がる。出たり入ったりすると血圧が上がる。メリット、デメリットを情報として提供してほしい。

ケアポートよしだも拠点施設だが、利用状況はどうか。ケアポートは全国で、東御市、青森県、島根県の3箇所。良いという話だが、そうではないところもある。しっかりとした手当てをし、ソフト面を充実してほしい。地域運動指導員と言うのは雲南市だけなので、認知された指導者養成の講座を開いてほしい。6町にそのような施設をつくってほしい。まめなかセンターに健康器具を揃えるということもひとつの方法だ。ぜひ近いところに、きめ細やかな手当てがしていただけるようお願いしたい。

A：ケアポートよしだの利用状況は、前期高齢者が年間36回、後期高齢者の60人の5グループが150回、特定高齢者の1グループが年間15回。主に教室で水中運動を取り入れて、地域運動指導員の協力によっておこなわれている。全市内の方を対象にしている。メリット、デメリットがあるのは承知している。医師や水泳の専門家の方のご意見を聞きながら使える施設になるように努めていきたい。(健康福祉部長)

A：プールの果たす役割について意見をいただいた。温水プールの中で運動をしようと思った以上の効果が得られる。身体教育医学研究所の運営委員長である武藤先生は、日本の最も権威あるスポーツドクターだが、温水プールの効能について推奨されている。健康拠点整備は、箱物が元あった場所にリニューアルするという考え方である。(市長)